

.....あなただけのLIFE.....



L.C.C.ういんぐスタッフ
森廣奈未さんの

LIFEをご紹介

このコーナーでは、その人らしいLIFEのエピソードをご紹介します。
利用者のみなさんの支援にあたる職員も、私たちにとっての大切な「あなた」。今回はL.C.C.ういんぐで働く森廣奈未さんのお話です。

福祉の仕事を志すようになったきっかけは、子どもの頃の体験と語る森廣さん。小学生の頃は近所の障がいのある子と一緒に遊び、下校時に通りの道の彼女の家まで連れ添うのが日常で、「ごく自然な流れだった」と振り返ります。

現在は包装資材作業を担当。先日は利用者の方とこんなことがあったと話をしてくれました。

その利用者の方は、普段は一連の作業内容が把握できており、いつもは声掛けで取り組めるのですが、その日は何故だか作業のやり方が分からなくなって、ずっと手が止まったまま。「どうしたのかな？」と思いつつも、今一度、手順と一緒に確認しました。作業の後に、「大好きな趣味のことが気になって、頭から離れなかった」との言葉が聞け、「私にもある」とハッとしたとの事。

それぞれの利用者の方の特性や思いを大切に。普段から心掛けていることを、今一度、思い起こさせてくれる出来事になったそうです。



くぜ
だ
さい
！
ご来場

プロレスがやってくる！

この度、社会人プロレス「松江だんだんプロレス」とのご縁があり、イベントを開催する事となりました。リング上で繰り広げられる迫力満点の戦いを、利用者のみなさんと一緒に応援します！
お子様から大人の方まで、ぜひ会場でプロレスならではの興奮と迫力をお楽しみください！

期日 11月1日(日)
13:00~16:00

会場 L.C.C.ういんぐ駐車場
(雨天時：持田寮体育館)

苦情や要望の受付・解決への取り組み報告 (令和8年4月~令和8年7月)

標記期間中に苦情の申し立てはありませんでした。今後も真摯に対応していきたいと考えますので、お気軽に、お申し付けください。なお、法人内、各事業所の苦情受付窓口以外に下記にご相談いただくこともできます。

千鳥福祉会苦情解決第三者委員

京 俊輔 氏 (島根大学人間科学部 准教授) TEL 0852-32-6239
武子 愛 氏 (島根大学人間科学部 講師) TEL 0852-32-9053
島根県施設運営適正化委員会 TEL 0852-32-5913
松江市障がい者福祉課 TEL 0852-55-5304

... 法人のホームページ・SNS公式アカウントはこちらから ...

ホームページ Facebook Instagram 私たちの活動をより身近に感じていただけるよう、法人からのお知らせや、事業所の日々の様子などを発信しております。ぜひご確認ください！

編集・情報発信委員会 江指 裕嗣 / 後藤 ふうこ / 森廣 奈未 / 高本 舞折 / 三原 恵美 / 津田 真治 / 松崎 純子 / 楠尾 佳代

Leaving Care News
千鳥福祉会 機関紙

2026.9.15

No. 155

みんなのLIFE 日和

社会福祉法人 千鳥福祉会

〒690-0814 松江市東持田町1415
TEL:0852-24-8821
(代)FAX:0852-24-8825

- ・障がい者支援施設 持田寮
- ・多機能型事業所 L.C.C.ういんぐ
- ・ワークセンターフレンド
- ・共同生活援助事業所 つばきの里
- ・居宅介護等事業所 千鳥福祉会ケアセンター大空
- ・相談支援事業所 ひまわり
- ・放課後等デイサービスばすてる・ばすてるびいす

大変だけれど、素晴らしい

この夏、7月26日は、津久井やまゆり園の事件から10年という節目の日でした。

障がい者支援に携わる者にとっては忘れることのできない事件。この機に、内部研修ができないだろうかと考えを巡らせながら、NHK「クローズアップ現代」の『津久井やまゆり園職員たちの10年』を視聴しました。

事件後、同じ現場に立ち続けた職員の目線で迎える10年。普通の青年だと感じていた元同僚が、「役に立たなければ、生きている意味がない」という優生思想を膨らませ、事件を引き起こした。「自分の支援を見て、彼がそう捉えたのか」「自分たちの言葉の端々に、障がいのある方を軽んじるような見方があったのか」「怪物を生んだのは自分たちだったのかもしれない」...終わることのない悔恨と問いを10年間続けてきたことを、職員の方々は打ち明けておられました。

私自身、障がいのある方に携わり30年を超えました。利用者のみなさんとの関わりには楽しさがあり、だからこそ今日まで続けることができました。一方で、「支援」という名目のもと、本人の意に沿わない説得や、効果の見えぬ働きかけを繰り返した過去もあり、その負い目がずっと自分の中に横たわっています。だから、半分は贖罪のためにこの仕事を続けてきた、と言っても過言ではありません。そうした葛藤や問いに対する一つの答えが、一人ひとりの権利を尊重するという、当たり前のことを日々積み重ねていくことではないかと考えています。ノーマライゼーションです。

番組には、北九州にあるNPO法人抱樸の理事長の奥田知志さんも出演されていました。奥田さんは、「者別」という言葉を使い、障がい者、高齢者、生活困窮者と、人々を括りがちな世の中に警鐘を鳴らしておられました。目の前にいる「顔の見える一人の人」として関わること、多様な人たちがごちゃまぜで暮らせるまちをつくっていくことの大切さを説かれています。

障がいのある方だけを特別に考えるのではなく、社会側が環境を整え、誰もが自然に暮らしていける社会を目指す。新しく描いた当法人ビジョン「関わる人みんなが幸せになる、ケアから始まる成長し続けるコミュニティ」も、目指す方向においては、どこか通じるものがあるのではないかと感じました。

一人ひとりとの関わりの中で、私たち自身も問い、悩み、育てられていく。そして、より良い関係や地域、コミュニティをつくっていく。「共生社会は大変だけれど、素晴らしい」、番組で奥田さんが語られた言葉。私たちもそんな未来を信じながら、今できることを地道に積み重ねていきたい。

そんなことを考える、酷暑の夏です。

千鳥福祉会 理事長 江指 裕嗣

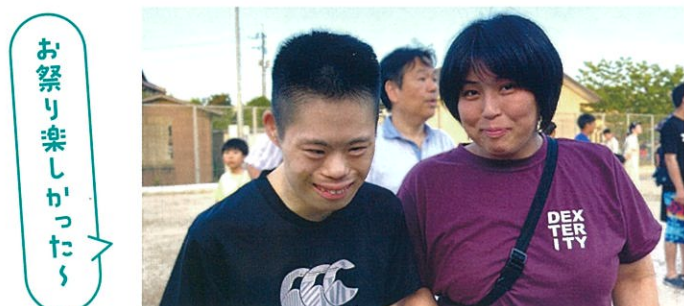
夏を満喫!! Fun-filled summer days and happy memories!

祭にぎやかな日々祭

もちだ夜市2026



お菓子のプールだ!



お祭り楽しかった!



たくさん売るぞ!



なにを食べてようかな

持田寮(利用者・職員)の感想

なかなか祭りに出かける機会もないので、参加された方はとても楽しまれていました。お菓子すくいをする張り切って2回も挑戦。少ない人数で行ったので、ゆっくりとテーブル席でつろぐことができました。「お祭り、楽しかった。また行きたい」そんな感想が、皆さんの口から聞かれました。その後、「お祭り=花火」という感覚があったようで、「花火がしたい!」とのご要望が。数日後には、持田寮玄関前で手持ち花火による「納涼祭」が実現しました。全部が楽しい夏の思い出になりました。

大空(出店者)の感想

今年はケアセンター大空からも、メニューをひとつ作らせていただき、初めて「もちだ夜市」に参加しました。数カ月前からメニューを考え、選んだのは具沢山の血うどん。試作を行い、内部で試食会も行いました。当日の売上は予定の半数程度となりましたが、暑い中、皆で協力して調理・販売にこしんだことは、良い夏の思い出です。来年は更に工夫を凝らした美味しいメニューを検討しております! 乞うご期待!

一部の収益を持田公民館へ寄付させていただきました!



ぱすてる・ぱすてるぴいす

夏祭りで地域と交流!

7月に「朝酌児童クラブ」の皆さんを招いて、「ぱすてる・びいす夏祭り」を行いました。今回は初の試みとなる、地域交流を目的とした夏祭り。びいす児童が中心となり、みなでおもてなしをしました。

オープニングはぱすてる・びいす児童がソーラン節の太鼓と踊りを披露して歓迎! 客席からも合いの手や掛け声で盛り上げて下さいました♪

次に、ヨーヨー釣り・腕相撲対決・くじ引き・巨大だるま落としの4つのゲームコーナーを楽しんでもらいました。それぞれ持ち場につき、スタンプカードのスタンプ押しや景品を渡す等、一人ひとりが責任を持って役割を果たしました。

全部のコーナーを回ったら、最後にお菓子すくいでお土産をゲット! 朝酌の皆さんも、ぱすてる・びいすの皆さんも、満足と達成感の笑顔を見ることができました!

そうして気づけば、いつの間にか一緒に遊んだり会話をしたり...。子どもたちが仲良くなるのはあっという間。良い交流の場となり嬉しく思いました。短い時間ではありましたが、とても賑やかなお祭りでした。皆さんの素敵な夏の思い出の一つになるといいなと思います。(ぱすてる・松崎)

ソーラン節



腕ずもう対決



だるま落とし



あてくじ



グループホーム

星に願いを

7月12日に持田公民館のやすらぎ会館を一日お借りして、グループホーム自治会の七夕会を開催しました。皆さんで飾り付けをし、短冊に思いの願いを込めました。中には世界平和を願う方も。

そのほか、お招きした青葉台踊ろう会様とのフラダンスでは、アロハの衣装を着て南国気分♪3B体操やじゃんけんゲームなど企画盛り沢山で、とても楽しい1日となりました。ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

これからも地域とのつながりを大切にしていきたいと思えます。皆さんの願いが叶いますように。

(つばきの里・津田)

ケアセンター大空

“避難所生活体験”報告

ビニール袋で足湯ができる?!

段ボールベッドをつくらう!



当事業所は在宅の利用者様が多く、災害時の避難所生活について把握しておいた方がよいと感じ、本年度の研修計画に取り入れる事にしました。日本赤十字島根県支部に防災セミナーを申し込み、ご相談させて頂く中で、快くお引き受け頂き、6月17日に研修を開催しました。参加は大空職員に留まらず、呼びかけで法人各事業所からも参加があり、合計20名の参加となりました。

当日の内容は「段ボールベッド」「非常用トイレ」「足湯」「ホットタオル」「非常食米の炊き方」等、実物を使用して、避難所生活体験をさせていただきました。ご利用者様も3名参加され、体験を通してどのような支援をプラスすれば避難所生活が送れるかのヒントにもなりました。

災害は無いに越したことはありませんが、備えあれば憂いなし。改めて考える良い機会になったとの声を多数もらえました。(ケアセンター大空・森本)